

中央審査会（国土交通省） 入選
熊本県賞

私がこの二年間挑戦してきた事

上天草市立大矢野中学校 三年 小松野 史子

私は中学一年生の時、水の作文を書きました。それまでは、蛇口をひねればいつでもどこでもどれだけでも水は出てくるものと信じていました。しかし、作文を書いた事で大切な事を学びました。

熊本県は、県土の約七割が森林で占められており、その恵まれた環境により、六十五万人の上水道をほぼ百パーセント地下水でまかなっています。これは、全国でも非常に珍しいケースです。湧水池も多く、全国に誇れる水の豊富な土地なのです。私も湧水源に行つた事があり、溢れ出す澄んだ水を飲み、とてもおいしく感じました。地元の人々も、その湧水を利用して野菜などを洗い、水が生活に欠かせない風景を見る事も出来ました。

しかし、水資源は限りがあるものであり、使い過ぎれば、必ず枯れてしまうのです。私達の生活は、水が不足すると一変してしまうのです。私達の日頃の生活ばかりではなく、農作物や畜産、工業などたくさんの方に影響してきます。また、安全に暮らすための消防活動にも影響する事を忘れてはいけません。

このような事を学び、自分に出来る事を考え、二年間、節水に取り組んできました。そして主に四つの事に挑戦してきました。

まず一つ目に、蛇口の水を出し過ぎない事です。出す水の量を鉛筆一本分くらいにすると、水を無駄にせず、使用量を随分と減らす事が出来ます。

二つ目に、歯みがきの時、必ずコップに水をためる事です。水の出しばなしに比べると、約十分の一の量で済みます。

三つ目は、食器洗いの時、お皿の油分をある程度紙でふき取り、さらにため洗いをする事です。不要な紙も有効に使う事が出来て、洗剤や水の量も少なくて済みます。

最後に、雨水を有効に利用する事です。バケツを幾つか置いておき、水がたまれば、植物にその水をかけています。

家族でこれらの節水を実行する事により、意識が高まって、毎月の水道使用量を確認するようになりました。使用量だけでなく料金で比べてみるのも分かりやすく、良い方法だと思います。料金を見てきた事で洗濯機も節水型のもので変えて、さらに節水が出来るようになったと思います。また、水道料金は、住んでいる地域によって差があります。私が住んでいる上天草市は、全国で九番目に水道料金が低い事も知りました。

私の家族がこの二年間でさまざまな節水をした事により、一体どのくらいの水が無駄に使われなかったでしょうか。

最近、スーダンの少年兵について知る機会があり、彼らの生活は水が何日も飲めないほどひどいものでした。よりたくさんの方が節水を心がけることによつてこのような人々に水を分け与える事が出来るとすれば、どんなにうれしい事でしょうか。

これから、私が行っている節水の一つでもいいから、私のいる中学校で一人一人が実践すれば、きっとものすごい量の水が節水されて、絶対に環境が良くなってくるに違いないと思います。

今度私が挑戦していきたい事は、十分に水も得られない人々の立場を考えたながら、水を大切に使う事です。

そのために節水のアイデアを考え出し、節水を続けるだけでなく、できるだけたくさんの方に水の大切さを理解してもらえれば、努力していきたくていいです。

熊本県賞

水の命

熊本市立三和中学校 二年 元村 彩

「水が透き通ってる。」

これが私が熊本に帰って来てから思ったことだ。

私は、小学校四年生から六年生までマレーシアにいた。そこで感じたことは水の大切さだ。熊本では、ごく普通に水道水を飲んでいたのでマレーシアではフィルターというものを通してやっとお湯を沸かすことができるものだった。そのため、お茶を沸かして飲むことはできても、冷たい水を飲むには、水を買うに行かなければならなかった。毎週、週末に家族みんなで水を買に行き、一、五リットルのミネラルウォーターをいつも両手に二本ずつ持って帰った。日本では見ることもない五、五リットルの水もしょっちゅう買っていた。その指の痛いことといったら、水以外にも、もちろん食料なども買わなければならないから両手は塞がってあつがあつだ。ドアも手ではなく体当たりでもするかのように押さなければならなかった。学校でも、水道の水は飲めないから毎日水筒を持って行った。こういう生活に最初は戸惑ってばかりだった。けれどしだいに慣れていき何も感じなくなっていた。

しかし、私をいつまでも慣れさせなかったことがある。それは下水道の臭いだ。このことに関しては、私が十年いようと二十年いようと変わらなかったに違いない。その臭いといったら思わず鼻をつまみ、走り出したい気分になるほどだった。

こんなことばかり書いていたら、みなさんのイメージには、「マレーシアはとつても水が汚い。」という印象しかないかもしれない。しかし、マレー

シアはとても海がきれいなところでもある。なぜそんなに違いが大きいのか。とても不思議だ。私が小学校四年生の時に見学旅行で浄水場に行った時の話では、ダムにたまっている水はきれいだが水道管が長年使われていてさびついているのが原因らしい。

ともかくにも、私がマレーシアで学んだことはたくさんあるが、水のありがたさが一番身にしみて感じたことだ。

今、私は当たり前のように、学校でのどが渴いたら思いっ切り蛇口を捻り、思いっ切り水を飲んでる。だから水の大切さ、ありがたさを忘れていた。こんなふうにごくごく水を飲める自分たちを幸せだと思わなくてはならないと思う。

みなさんは見ることがあります。熊本のイキイキとした水がわき出ている様子を。地上にでて、うれしい気持ちを押しえ切れないうように、ブクブクブクわき出ている様子を。私はその様子を見て、「水にも命があるんだな。」と思った。だから自分勝手にゴミを川に捨てたりすることは決して許されないことだと思う。水の命を私たちのせいで汚してはならない。こんな私たちの小さな心が地球にとつては大きな力となると思う。水、そして地球の命を輝かせ、私たちにも命があるように、水にも命がある。だから水と共に生きていける世界になりたい。

大切な水

御船町立御船中学校 三年 藤木 あみ

「みんな貯金箱出さない。」

この父の一言で私達家族の水に対する意識が高まったといつてもよいだろう。そう父に言われ、私を含む兄弟五人は今までこつこつと貯めてきたお金の入った貯金箱を仕方なく差し出した。目標の金額に向けて貯めていたお金を、なぜ父に渡さなくてはならないのか疑問に思ったのか、弟が「その貯金箱持つていつてどうするの。」

と父に聞くと、父は母と私達にその日あった出来事を話してくれた。

父は「ロータリークラブ」という世界各地にある団体に所属しており、そのクラブの会議でタイの子供達の話が出たそうである。そこでタイでは飲み水があまりなく、泥水などを飲んで生活しているという実態を耳にしたきたそうだ。みんなでお金を集めてタイの子供達のために綺麗な水が出る水道を設置したい、という意見を周りの人に呼びかけた所、多くの人が共感してくれ、お金を集める事になったという。

その話を聞き、私は最近テレビで見た泥水の中で体や頭を洗い、またその水を飲んでいる外国の子供達の姿を思い出した。日本という豊かな国に住み、毎日綺麗な水を飲んでる私達にとっては思わず「汚い！」と言つてしまふそうなくらいの光景だったにもかかわらず、その国の子供達は一口の水を飲むことに幸福を感じているかのように皆笑っていた。そして、私達が少しだけだったけれど、寄付をしたお金で水道が設置され、綺麗な水を飲んだ時の子供達はどんなに喜んでくれるだろう、と思った。しかし、それと同時に「お金をあげて、タイの子供達が喜んでくれればそれでいい

のかな。」という気持ちが心の中で芽生えた。そして、自分が水を大切にすることを始めていきたい、と思った。

そこで、私は自分がどのような所で水を無駄にしているのか考えてみると、朝、歯を磨く時の水やお風呂の残り湯などたくさん水を無駄にしていた。だから、まず家族に呼びかけて、節水を合言葉に歯を磨く時はコップに水をためたり、お風呂の残り湯は洗濯に利用してみた。水道料金での節水前と後の比較をすることはできなかったが、私の中の気持ちは何かすっきりした。

私が少し節水したぐらいでタイの子供達に幸福を与えられるか、といわれたらそうではないが、お金だけでなく、そういう物事をしよう、という気持ちが大切なんだと思う。現在、日本には新鮮な水がたくさんあるが、ほんの少しでも無駄にせず、使う必要のある分だけを使えばいいのではないだろうか。生きるためには絶対必要な水。その大切さを忘れずに使っていきたい。

最後に、私達家族がお金を寄付したタイの方からお礼として、タイの伝統工芸品のかばんとポーチが送られてきた。お礼なんかいいのに、と思つたが、このかばんとポーチを見ると水は大切にしないと、と再度考え直すようになった。